

FRONT VIEW

フロントビュー

RB-79 BALL TWIN SET

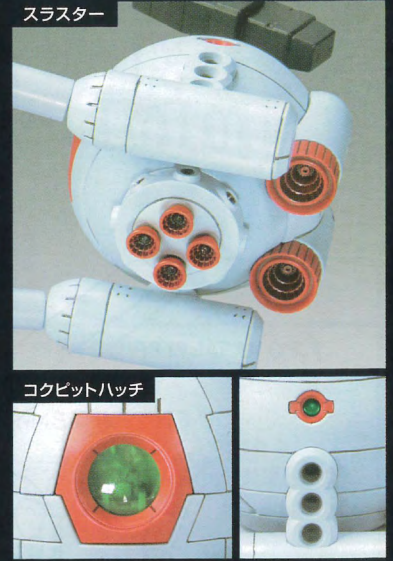
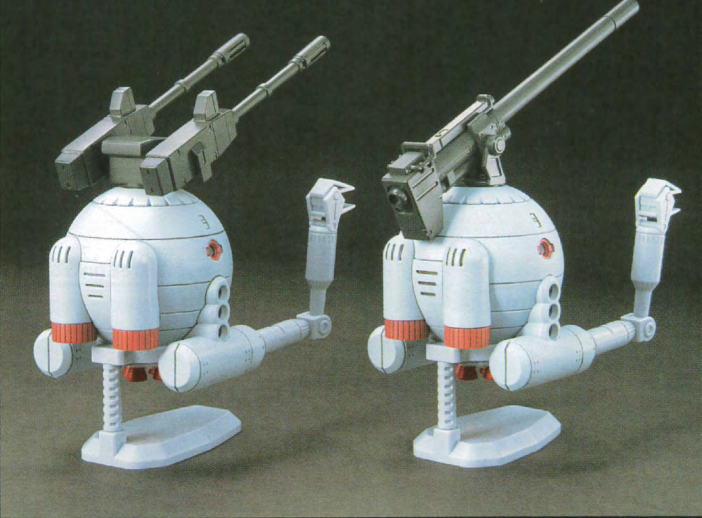
E.F.S.F. MASS-PRODUCED MIDDLE-RANGE SUPPORT MOBILE-POD

MODEL NUMBER: RB-79
 TOTAL HEIGHT: 12.8m WEIGHT: 17.2t TOTAL WEIGHT: 25.0t
 GENERATOR OUTPUT: 400kw
 THRUSTERS TOTAL PROPULSION: 24,000kg
 SENSORS RANGE: 4,000m
 ARMAMENTS: 180mm RECOILLESS CANNON
 DOUBLE CANNON

REAR VIEW

リアビュー DETAIL

専用のディスプレイスタンドが付属。



COLOR GUIDE

※よりリアルに仕上げたい方は、右の基本色をご覧ください。
 ※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
 ※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。
 ※ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。

- 本体: ホワイト (90%) + ミディウムブルー (10%) + グレー (少量)
- 主砲: ミッドナイトブルー (90%) + ホワイト (10%)
- ハッチ周り・パーニア等: シャインレッド (80%) + ブラウン (20%)
- 側面穴部等: ブラック (100%)
- コクピット内部: 明灰色 (100%)
- センサー部: シルバー (100%) の上から クリアグリーン (100%)



1/144 SCALE
HG
 UNIVERSALCENTURY

G 機動戦士
ガンダム
 UNDAM



RB-79 BALL

「BALL（ボール）」は、地球連邦軍が開発した戦闘ロボットであり、簡易型MS（モビルスーツ）として一年戦争後期に大量に実戦投入された。無論、連邦軍の主力MSはあくまでRGM-79 ジムである。連邦初の量産型MSでありながら、ジムの複数の生産ラインに異なった連邦の工業力は驚異的なものであったといえるだろう。しかし、生産性を優先した結果、スペックが要求基準に達していない機体も多く、生産数そのものも連邦軍首脳の見解には不足していたため、ジムの支援機が調達されることとなった。民生用の宇宙ロボット SP-W03は、装甲を軍用基準にまで強化した作業用の軍需品として、一年戦争中期には相当数が配備されていた。それを戦闘用に改造、転用したものがRB-79 ボールである。戦闘用としての量産が決定してからは、ガンタンクの主砲を搭載したバージョン（RX-76とされる）などが試作され、装甲も戦闘レベルまで強化されることとなった。その際、もともと配備されていた機体を強化改造したのもあり、マニピュレーターの様相や武装にもいくつかのバリエーションが存在する。本機は燃料電池を動力源としており、帰還後の機体冷却が不要なため前線では随分と重宝された。戦闘能力にしても、高機動バーニアシステムを搭載し、姿勢制御用としてベレット式のロケットモーターを機体各所に配置しているため、ジムとの作戦行動も可能であった。とはいえ、MSレベルの運動性や機動性を発揮できるわけでもなくMSとの近接戦闘に対応できた機体は“ほとんど”なかったと言われている。それでも、本機の大量投入による飽和攻撃は、特に一年戦争終盤の情勢を左右した宇宙要塞の攻略などにおいて有効であったのは事実であり、連邦軍を勝利に導いた要因のひとつであったと言っても過言ではないだろう。

180mm低反動砲

機体上部のターレットにマウントされた実体弾砲。いくつかのバリエーションがあり、砲身を2門装備する機体も相当数生産された。

SPEC

型式番号：RB-79
頭頂高：12.8m
本体重量：17.2t 全備重量：25.0t
ジェネレーター出力：400kw
スラスター総推力：24,000kg
センサー有効半径：4,000m
武装：180mm低反動砲
2連装キャノン砲

2連装キャノン砲

俗に15（フィフティーン）キャリバーと呼ばれる事もあり、ゼロ距離射撃も可能であったとされる。



アーム

原型の作業用宇宙ロボットの装備を軍用の基準まで強化した汎用マニピュレーター。無重量空間における機体保持や繋留のほか、前線では各種作業にも活用された。

RGM-79 ジム

一年戦争時に、地球連邦軍が「RX-78-2ガンダム」の戦闘データをフィードバックして設計した量産型MS。



HGUC No.20 ジム (別売り)



ソロモン海戦やア・バオア・クー攻略戦において、1機のジムをリーダーとし、2機のボールをその支援に充てて最小単位とする戦闘ユニットが大量に投入された。ボールの生産と実戦配備自体が、ジムの性能や生産数が所期の目標に達していないための苦肉の策であったものの、本機がジム以上に低コストであったため初めて可能となったものである。これは、旧世紀における戦闘機の編隊構成などに採用されたハイ・ローミックス構想に近い運用法であったとされる。

※この商品には、「HGUC ボール ツインセット」（ボール、2機）が入っています。写真はバンダイプラモデルアクションベース2（別売）を使用しています。



RB-79 ボール

RB-79 ボールは、TV作品、および劇場版「機動戦士ガンダム」シリーズなどに登場する戦闘用宇宙ロボットである。MSの運用法が確立されていなかった連邦軍においては量産型MSに分類されている。U.C.0079年12月30日、公国軍が開発した直径6キロに及ぶ巨大なレーザー兵器ソーラ・レイによって、連邦軍主力艦隊の約半数が消滅してしまった。主力艦隊を失い、指揮系統が混乱した連邦軍ではあったが、WB（ホワイトベース）を基点に残存戦力を集結させ、再編成の後、ア・バオア・クーへの進撃を開始する。連邦軍の第二大隊と第四大隊はNポイントより侵襲。WBは残存艦艇とともに、ルザルを旗艦としてSポイントを目指す。そして数刻後、無数の火線が交錯し、双方の艦隊に閃光が走る。突撃艇の先制が防衛ラインの接近を告げ、ビーム攪乱幕を突破したミサイルが艦艇をえぐる。「全MS隊、発進!!」Fラインを突破した連邦艦隊は、一斉にジムとボールを解き放つ。それに呼応するかのように、公国軍の超大型MS空母ドロスの連邦艦隊のただ中に突出し、無数のMSを吐き出す。ジムとザクが、リック・ドムとボールが行き交い、ザクに一蹴されたボールがジムに激突する。連邦艦隊はNフィールドに立ちほだかる空母ドロスを抜けずいたものの、Sフィールドからルザル、WBを擁（よう）する新たな艦隊が侵襲を開始。ジオングとの出会い頭に数隻の艦艇が沈んだものの、ガンダムを始めとするMS部隊はア・バオア・クーへと取り付き、その先鋒を、露払いを、そして援護をボールが勤め、連邦軍のMS部隊は続々と上陸を果たす。戦闘は結局を迎えつつあった……。

●写真はイメージです。

警告 (けいこく)

保護者の方へ 必ずお読みください。

- 小部品があります。誤飲・窒息の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。

注意 (ちゅうい)

- 縁部が鋭い箇所がありますので、注意してください。
- 先端が尖っている箇所がありますので、注意してください。
- 部品はきれいに切り取り、切り取ったあとのクズは捨ててください。
- 袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。

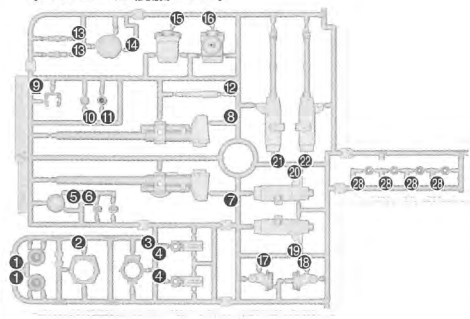
《組み立てる時の注意》

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
- ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

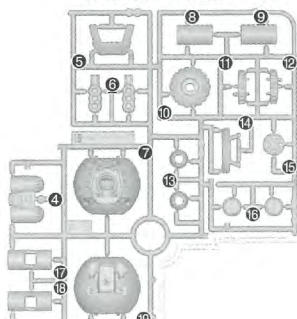
 ・線沿いを切るところ	 ・シールの番号	 ・デカールの番号	 ・反対側に取り付けるパーツ	 ・両側に同じパーツを取り付ける	 ・向きに注意して取り付ける	 ・ビスの締めすぎに注意
 ・切り取る	 ・部品を数値の個数作ります	 ・先に組み立てます	 ・後に組み立てます	 ・隙間に合わせて回転させます	 ・どちらかを選んで取り付ける	 ・反対側と同様に動かし

パーツリスト

Aパーツ (×2)
(スチロール樹脂: PS)



Bパーツ (×2)
(スチロール樹脂: PS)



Cパーツ (×2)
(ABS樹脂: ABS)



※クリアパーツの中には、製造工程上気泡が入っているものがありますがご了承ください。

※ボールは2体組み立ててください。※組み立て説明は、1体分になっています。

1

(向きに注意)

×2
2個作る

A13

〈横から見た図〉

A4

2

※きれいに切り取ります。

B7

1

B19 ※きれいに切り取ります。

〈前から見た図〉

3

B10

C8

B5 ※きれいに切り取ります。

B14 ※きれいに切り取ります。

2

4

A3 ※きれいに切り取ります。

A2

※切り取らないように注意してください。

向きをかえます。

A14

3

5

4

B4

A1

A1

B11・B12

B15

(高欄取り付ける)

B6

A28

A28

A28

6

B18

B8

B16

(向きに注意)

B13

〈後ろから見た図〉

5

B17

B9

〈後ろから見た図〉

B16

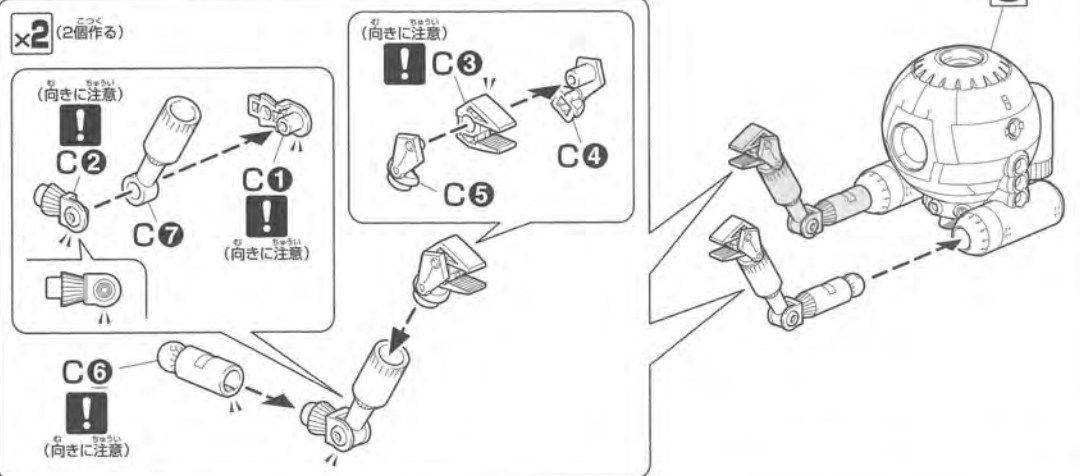
B18

(向きに注意)

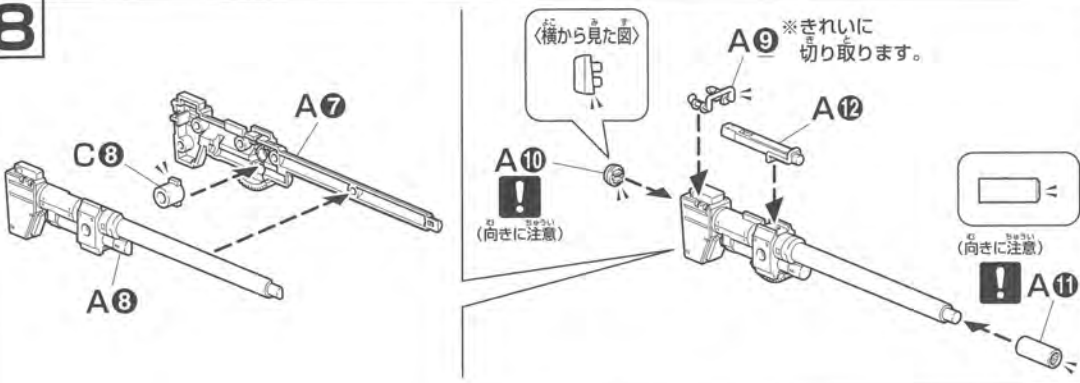
〈上から見た図〉

広い

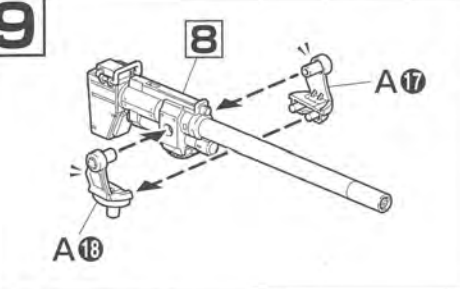
7



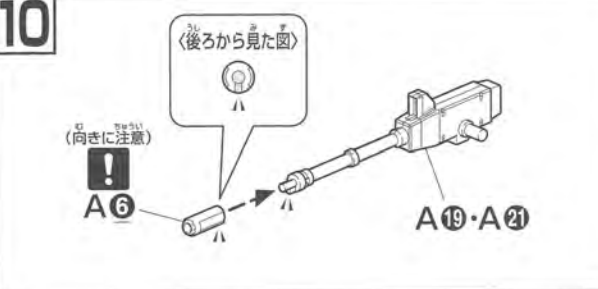
8



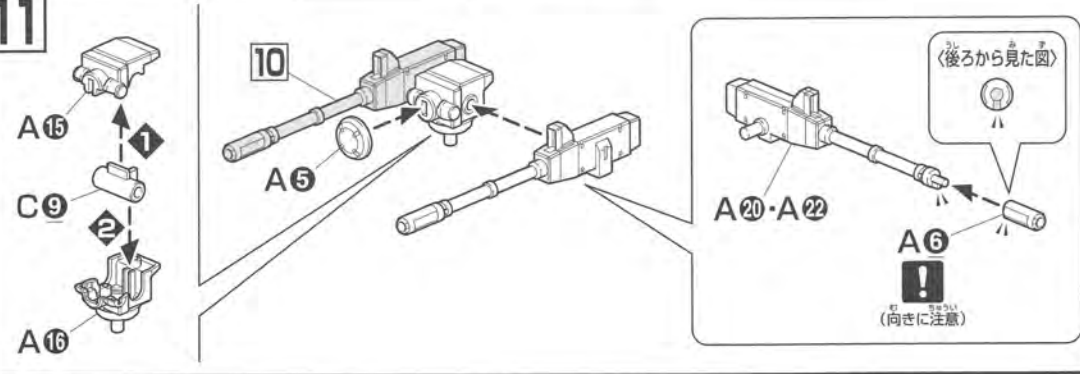
9



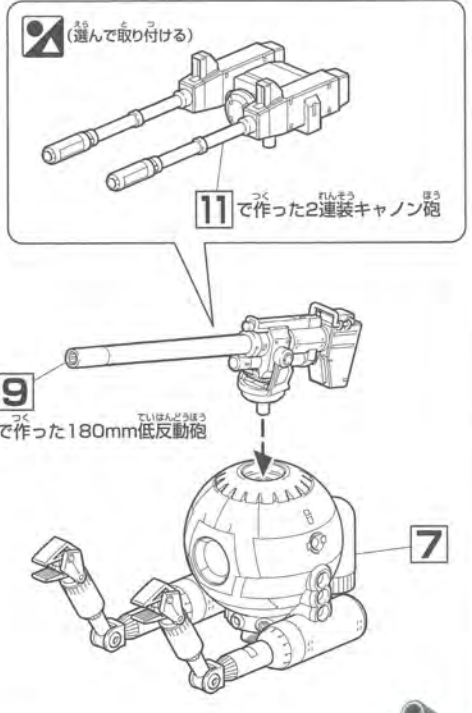
10



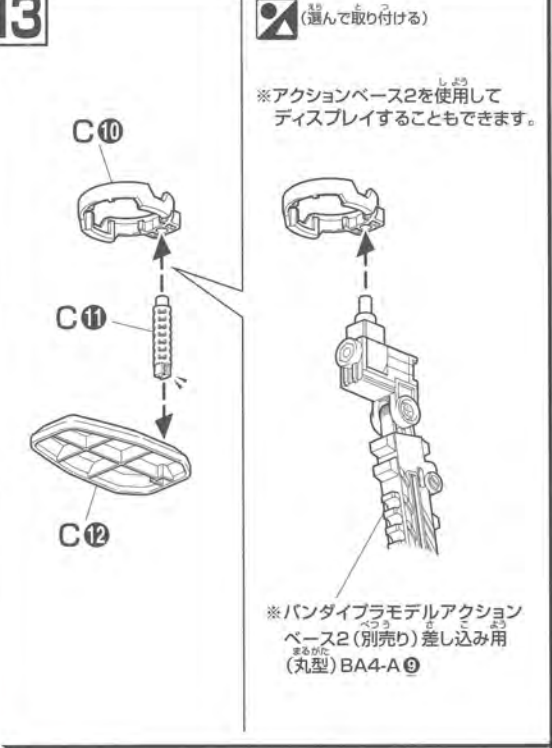
11



12



13



14

